



恕の心

12月

令和3年12月7日 校長 廣瀬 真樹

「人権週間」

12月は師走(しわす)といいます。師(先生)が走ると書きますが、この時期は先生が忙しく走り回る月だということからきたという説もあります。先生方だけでなく、世の中全体も何かとあわただしい時期でもあります。こんな時こそ、時にはひと息ついて、今年の自分を振り返る機会、時間を作ってみることも大切だと思います。

先日、新聞に全国中学生人権作文コンテスト石川県大会で最優秀賞を受賞した安宅中学校1年の■■■さんの「誰かの力に」という作品が掲載されていました。身近な人のコロナへの感染から考えた差別や偏見、そしてその時に感じた人の優しさや温かさについて書いていましたが、素直な文章から伝わってくるその思いに大変感心しました。作品の終末にはこんな言葉が書いてありました。「友達や先生、私を取り巻くたくさんの人たちの優しさやあたたかさに改めて気づくことができた」「どんな人に対してもその人がうれしくなる言葉をかけていきたいし、思いやりを大事にしていきたいです」..。

今週は人権週間についての取り組みがあります。その一つが自分が実行することを心を込めて付箋に書くというものです。これを機会に「人権」についてじっくり考えてみてほしいと思います。



人権教育の目標は「自分の大切さと共に他の人の大切さを認めること」ができるようになり、それが様々な場面で具体的な態度や行動に表れるようになることです。自分を大切にできない人間は、自分以外の他人を大切にすることなどできません。まずは自分を大切にしてください。そして同じように他人を大切にしてください。他人を大切にするとすることは、他の人の気持ちを想像して、温かい言葉をかけることです。この人権週間で一人一人がしっかりと考え、意識して温かい言葉を使ってほしいと思います。

ゆるせない あの子いじめて 笑う君

これは昨年、鳥取市が応募した人権標語の入選作品の一つで、ある小学6年生の作品です。そのほかにも「その投稿 本名だして 言えますか」や「思いやり 思うだけでは 変わらない 行動してこそ思いやり」などの作品がありましたが、私はこの作品が一番心に残りました。なぜかという残念ながらこの情景がぱっと心に浮かんだからです。

笑いや笑顔はポジティブな気持ちになるし、周りとのコミュニケーションを円滑にする力もあると思います。「笑う門には福来る」というように、幸せを呼び込む力もあると思います。ただこの標語の笑いはちょっと違います。

誰かを馬鹿にする笑い、だれかをおとしめることみにくいで笑いをとる……そういう姿は本当にかっこ悪いし、醜みにくいと私は心の底から感じます。ただ厄介なのは、言っている本人はその醜みにくさに気が付かない……それによってどんな気持ちに相手なるのかを想像できない……自分の姿が見えない……

この人権週間で、少し立ち止まって「人権」についてぜひ考えてみてください。そして、態度や行動に表して下さい。差別やいじめに出会ったとき「だめだよ」と言える人間になってください。そうすればきっと週間がやがて習慣になるのではないのでしょうか。

校長コラム

「やさしさのキャッチボール」

キャッチボールを続けるためには、自分の技量と相手の技量とをしっかりと見定める必要があります。相手の技量にあったスピードや距離を考えながらじゃないと続けることはできません。つまり「思いやり」「やさしさ」が必要ということです。

これは、人間関係、人と人とのコミュニケーションも同じです。

相手にしっかりボールを見せて、時には「このボールを投げるよ」と言って投げなければいけないこともあります。そして、受け取ったボールはまた、相手に「やさしさ」を乗せて返すことができるのです。

「やさしさのキャッチボール」は心のボールの投げ合いなのです

*昨年載せたコラムです。もう一度載せました。…いつも心がけたいものです…(反省)